

2024. 03. 15

## サステナブル建築事例集ホームページの更新公開について ～ 事例の充実～

(一社)日本建設業連合会(以下、日建連)は、2009年度より、会員各社の設計施工によるサステナブル建築の事例集をとりまとめ、ホームページ内のサステナブル建築に関するコーナーで公開しています。このサステナブル建築事例集は今年で15年目を迎え、事例が770件を超えるまで充実してきました。このコーナーではサステナブル建築事例集のほか、サステナブル建築特別委員会報告書、サステナブル建築を実現するための設計指針、CASBEE対応状況および省エネルギー計画書に関する調査報告書も公開しています。2023年度の事例の一般公開は3月上旬の予定です。

### 1. 経緯

日建連は、旧BCS((社)建築業協会)時代の1990年より「建築業と地球環境」を重要な課題として位置づけ、各種の活動を行ってまいりました。2021年には「環境自主行動計画」第7版を日建連として作成し、施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量原単位を2030～2040年度の早い時期に40%削減を目指し、2050年までに実質0となる取組を推進することを表明しました。また、日建連は2050年カーボンニュートラル実現に向けた取組を更に推進するため、「2023年カーボンニュートラル実現に向けた推進方策」～2050年に向けたロードマップ～を策定しました。その中の4つのプロセスのひとつである「設計・建物運用段階」では、2030年に引き上げられる省エネ基準(新築)を達成し、ZEB/ZEH水準(オリエンテッド以上)の省エネ性能の確保を目指すとしています。

この施策の一環として、会員各社の設計施工案件(新築、改修、保存等)のうち特にサステナブル建築に取組んだものを2009年度より事例集としてまとめ、ホームページ上で公開してきました。今年度も日建連の建築設計委員会環境設計専門部会がその取りまとめを行い、2023年度版として56件を追加し770件となりました。

今年度は建物用途では事務所が23件と最も多く、次いで工場・物流施設の9件、集合住宅9件と続き、12分類に渡る広範な事例が集まりました。(複合用途含む。)サステナブル建築としての選定の観点(カテゴリー\*)としては、環境配慮技術50件、省エネ・省CO<sub>2</sub>技術46件、周辺・地域への配慮37件、生物多様性14件といった点が多くなっています。案件のCASBEE評価としては、Sランク13件、Aランク29件、B+ランク5件となっています。

また近年の建築分野での脱炭素への取組みを反映して、ZEB/ZEHに関しては記載されているだけでも29件が認証取得あるいは取得予定で、その内訳はZEB11件、Nearly ZEB3件、ZEB Ready9件、ZEH-M1件、ZEH-M Nearly1件、ZEH-M Oriented2件となっています。

### 2. サステナブル建築事例集について

○事例件数は累計770件、今年度は会員17社から56件の提供を新しく受けました。

○設計施工の事例をまとめ、最新の事例を多く紹介しています(施工中案件も含む)。

○事例シートには、

名称、建築概要、カテゴリー\*、案件の説明、図面、写真、サステナブル建築としての特徴の説明  
主要な採用技術\*\*、CASBEE評価結果、設計担当者名などが記載されており、案件ごとにA3版1枚

の事例シートにまとめています。

- 検索は建物名称、所在地、プロジェクト種別、建物用途、カテゴリ、竣工年、会社名、主要な採用技術より選択可能でしたが、2016年度の事例公開からは、任意のキーワード検索の機能を追加しユーザーがより利用しやすいシステムに改良しております。
- 今年度の本事例集では下記のような取組みを有する事例が多く紹介されており、事業企画、設計、施工、研究開発、建物の運用・管理などに広く、深く関わっている当会会員各社の特色が打ち出されたものとなっています。これらのポイントは図・写真を交えてわかりやすく説明されており、大いに参考として頂けるものと考えております。

#### 高い環境性能

- ・ BEI 値が「マイナス」となる、一次エネルギー消費量削減と創エネを高度に両立した事例
- ・ 街区全体の環境・景観・ランドスケープデザインの調和を図った商業施設事例
- ・ 都心に森を創出する、自然回帰のまちづくりをテーマとした集合住宅

#### 公的な認証等の取得

- ・ 今年度 56 件中 ZEB/ZEH 認証取得は 29 件、そのうち物流施設は 8 件全て取得、住宅 ZEH-M は 9 件中 4 件で取得
- ・ 米国 IWBI で WELL 認証プラチナを取得した木造診療所・厚生施設の事例
- ・ CASBEE ウェルネスオフィス S を取得した事務所やウェルビーイングな働き方提案の事例
- ・ LEED ND 認証、SITES 認証の準備をしている物販事例

#### 歴史の継承・既存ストックの利活用

- ・ 築後 60 年超の数寄屋建築の保存と改修再生した事例

#### BCP、長寿命化、震災との関連

- ・ 災害時にも活用可能な省エネ設備、コミュニティ施設を設置した大規模集合住宅の事例
- ・ 公共緑地とともに、マンホールトイレ、太陽光発電を整備し防災地域貢献する物流施設の事例

#### 木造木質化

- ・ CLT を利用し工場の木質化に取り組んだ事例
- ・ 地産地消で間伐材を利用した、独自の木質大空間構法を活用した事例
- ・ S 造木造ハイブリッド構造による、都心の賃貸オフィスや教育施設の事例
- ・ 集合住宅で最上階を木造化した事例

#### 設備・エネルギー関連

- ・ 太陽熱 / 地中熱を利用した熱源、熱負荷を低減する外観、ウェアラブル端末を利用した制御の事例
- ・ コージェネ、井水利用熱源、バイオガス発電、自然換気昼光利用、AI カメラ空調換気制御の事例
- ・ マルチ PCS (パワーコンディショナー) による太陽光発電、蓄電池、EV 車の直流リンク事例

・大型庇設置による直射日光の遮蔽と下階庇からのバウンド光を同時に活用する事例

\* カテゴリーとは、サステナブル建築への取り組み方に関する分類である。

「環境配慮デザイン」「省エネ・省CO2技術」「各種制度活用」「評価技術・フィードバック」「リニューアル」「長寿命化」「建物基本性能確保」「生産・施工との連携」「周辺・地域への配慮」「生物多様性」「その他」の11項目。

\*\* 主要な採用技術とは、CASBEEの中項目にあわせた分類である。

「Q2.2 耐用性・信頼性」「Q2.3 対応性・更新性」「Q3.1 生物環境の保全と創出」「Q3.2 まちなみ・景観への配慮」「Q3.3 地域性・アメニティへの配慮」「LR1.1 建物外皮の熱負荷抑制」「LR1.2 自然エネルギー利用」「LR1.3 設備システムの高効率化」「LR1.4 効率的運用」「LR2.1 水資源保護」「LR2.2 非再生資源の使用量削減」「LR2.3 汚染物質含有材料の使用回避」「LR3.1 地球温暖化への配慮」「LR3.2 地域環境への配慮」「LR3.3 周辺環境への配慮」「Z その他」の16項目。

以上

---

本件に関する問い合わせ先

(一社)日本建設業連合会 (担当：龍野)  
電話 03-3551-1118 (建築・安全環境グループ)  
東京都中央区八丁堀 2-5-1 東京建設会館